

なんだ・かんだ

◆ 静岡県の製造品出荷額 ◆

静岡新聞社が発行している情報誌「SERI」の6月号に大変気になる経済指標が出ていたので、ご紹介致します。

『静岡県の製造品出荷額が激減しています。』

○大震災と超円高に見舞われた平成23年の静岡県の製造品出荷額は、大きく減少し、1兆7691億円(前年比△6.5%)で、都道府県順位では4位(前年3位)と大幅なマイナスとなりました。1位は愛知(対前年△3%)、2位は神奈川(+4.1%)、3位は大阪(+8.4%)。また、愛知と静岡の2県の合計減少額は、全国の合計減少額の1/2以上を占めています。

・「輸送用機械」△4627億円「電気機械」、△6269億円。

○平成20年～23年(20年はリーマンショック)の3年間の製造品出荷額は、△4.4兆円(なんと△23%)

・「輸送用機械」△1兆5947億円、「電気機械」、△1兆1109億円、「産業機械」△3992億円。なんとこの3業種で減少額全体の7割を占めています。その他の産業でも、額は上位3業種に比べて少ないですが、割合では、20～30%マイナスは当たり前、繊維や皮革製造に至っては40%を超える減少率となっています。かろうじてマイナスになっていないのが、食品と石油製品だけです。

○特に、リーマンショック後の平成21年の状況が最悪でした。対前年で△4兆1268億円(△21.5%)も減少したのです。ただしこの年は、全国的に大きく減少して厳しい状況であり、長く製造品出荷額が神奈川県に続き3位だったのが、この年2位になったことなどで、危機感が薄れていたようです。

この下落傾向の始まりは、平成18年頃。「輸送用機器」の不振の1つは二輪車にあり、輸出向け、国内向けとも完成車生産が県外、海外に集約され大幅に減少し、回復する材料が見当たらないということです。

また、静岡県の輸出相手国は欧米が主流で、成長が続くアジア中心の全国とは大きくその比率が違い、長引く欧米の景気低迷がモロに響く構造となっています。

二輪車だけでなく、あらゆる製品の完成品メーカーは、ここ数年ものすごい勢いで海外進出し、それまで重要部品などは日本からの輸出に頼っていたのを、進出した先で現地調達を高めています。また、国内に残った企業も、仕入れの見直しや合理化を図り、県内大手企業へ部品や資材を供給する企業は、従来のビジネスモデルを続ける限り、今後ますます売上が減っていくと考えられます。

以上のように、日本全国で、特にこの東海圏は異常な早さで市場が縮小しています。同じお客様に、同じものを同じ様に売ってはい間違ひなく、売上は毎年10～20%は減少していくのではないのでしょうか。

アベノミクスにより、夏以降のある程度需要は回復して行くと思えますが、以前と比べてマーケット自体が小さくなっているわけで、その回復需要の総量にも限界があります。

既存のお客様に、今まで売っていなかったものを売るか、海外を含め新しい場所で、お客様を増やすか、しか生き抜いていく道はないということです。



今年も、例年より10日から2週間も早く梅雨明けし、その後、35度を超える猛暑日が観測史上初となるくらいに続き、群馬や山梨等では39度を超えるという酷暑で、各地で熱中症で搬送される方が大変多くいました。そしてこの数日の大雨です。やはり温暖化の影響ででしょうか？

そんな中行われた参院選挙は、予想通り自民党の圧勝で、自民党・公明党で安定多数を確保し、衆・参のねじれが解消されました。

選挙結果による仕事上の影響を考えると、一つは、おそらく数ヶ月は、円安・株高が続くだろうという事。これまで、アベノミクスにより上場企業を中心に景気が上向き、設備投資意欲も出てきているようです。また、我々中小企業、そして庶民の景気浮揚に対する期待感も上がっています。第3の矢「成長戦略」と共に仕事量も増えてくるのではないのでしょうか。

二つ目は、消費税増税に反対していた野党は大敗したので、消費税増税が現実には一歩近づいたと言いう事です。年度後半、増税前の駆け込み需要が増えるのではないのでしょうか。しっかりとアンテナをはって、情報の取りこぼしのない様にしなければと思っています。

代表取締役 服部 敏一郎

酷暑の7月と参院選挙

機能性塗料⑤

● 放射能除去塗料 ●

水による高圧洗浄で放射能を除去すると、放射能を含んだ水が被除染物の周囲に飛散し、上手く回収できたとしても、回収した水自体放射性廃棄物となります。そしてこの水が庭の土にしみ込んでしまうと、庭の土が放射性廃棄物となってしまう、しみ込んだ土を撤去しなくてはならなくなり、膨大な費用がかかってしまいます。

この塗料は、放射能が付着した壁や屋根や床にスプレーまたはハケ、ローラーで塗装を行います。塗膜は1～2日で硬化し、塗膜硬化後にセロテープのように剥がして、塗膜裏面に付着した放射性汚染物質の除染が出来ます。塗装表面の状態にもよりますが、実施例では放射性汚染物質の約90%が除去できるとされています。剥がした塗膜は厚さ0.3ミリメートル程度で、小さく折りたたむことができるので、放射能汚染廃棄物としての処理も簡単にできます。30平方メートル使用した場合の放射能汚染廃棄物量は約8キログラム程度になります。

除染作業は塗装し、剥離するだけなので、拭き取り作業と比べ、作業者の被曝は軽微で済みます。

この塗料は、米国スリーマイル島原発事故(1979年)の除染作業効率化のために開発された製品だそうです。



■ 8月夏期休暇と臨時休業のお知らせ ■

夏期休暇：8月13日(火)～8月16日(金)まで4日間を夏期休暇とし、会社としてお休みを頂きます。尚、12日(月)と17日(土)は、会社は営業をしますが、社員は交代で半数がお休みさせていただきます

各メーカーの工場の夏休みも様々です。お客様の生産に支障を来さぬように対応していくつもりですが、万一の場合もごさいますので、直接生産に関わる製品につきましては、生産計画をご確認の上、会社担当とお話ししていただき、対応をお願い申し上げます。

尚**8月31日(土)は社員研修のために、臨時休業**とさせていただきます。ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒よろしく申し上げます。

本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。

株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/